

ロボスーツ無料貸与

岡山県、歩行リハビリテーションに活用

岡山県は4月から、足が不自由な人の歩行を助けるロボツースーツを県内の病院や施設に無料で貸し出す事業を始める。筋力が衰えた高齢者や脳卒中患者のリハビリテーションへの活用の可能性を探る。地方自治体によるロボツースーツ普及支援は全国初で、予算は3年間で約6,200万円。県は「ロボット大国・日本の有望株に先行投資して新産業を誘致したい」としている。

貸し出すロボツースーツは「HAL」。「ハイブリッド補助手足」を意味する。開発した筑波大の山海嘉之教授が岡山市出身という縁で普及支援を決めた。全身型（重さ約23キロ）と下半身型（同約15キロ）

があり、山海教授が設立したベンチャー企業「サイバードイン」（茨城県つくば市）が2009年からレンタル販売し、全国で約160台が稼働している。HALは白い樹脂でカバーしたデザイン。皮膚に付けたセンサーが、脳が出す電気信号を感知すると、股や膝など関節部分にあるモーターが動いて、人間の動きを補助する。県は下半身型HALを、年間20台前後貸し出す。従来のリハビリテーション装具に比べてリハビリテーション期間の短縮につながるか、脊髄損傷など重度のリハビリテーションへの対応ができるかなどを調べる。（井上元宏）

（毎日新聞・大阪 2011年2月28日）

「ノーマライゼーション・障害者の福祉」2011年3月号特集目次

特集・平成23年度障害保健福祉関係予算

平成23年度障害保健福祉部予算案の概要

平成23年度障害保健福祉部関係予算案（厚生労働省障害保健福祉部企画課）

平成23年度予算案から見る障害者施策の動向（平野方紹）

地域で当たり前暮らし、社会参加の実現のためのサービスや事業は進むのか（阿部一彦）

地域生活移行支援予算を見る（田中正博）

精神障害者関係予算に見る方向性と課題（松岡克尚）

発達障害関係の事業・地域で生活するための施策の推進という観点から予算を見る（辻井正次）

平成23年度予算の概要を見て―重症心身障害児関係―（君塚 葵）

就労支援関係予算を見る（奥西利江）

「リハビリテーション研究」No. 146 特集等目次

特集・第33回総合リハビリテーション研究大会

―総合リハビリテーションの新生をめざして

第33回研究大会の基本的な考え方（大川弥生）

シンポジウム1 総合リハの新生（上田敏）

シンポジウム2 総合リハの視点から「働くこと」を考える（松井亮輔）

シンポジウム3 総合リハの視点から災害を考える（大川弥生）

分科会1 小児の生活支援と領域・機関連携（吉

川一義）

分科会2 総合リハに生かす工学（松本吉央）

分科会3 総合リハセンターにおける医療部門の位置づけおよび役割と機能（伊藤利之）

ICF研修会と公開市民講座（上田敏）

講座

総合リハビリテーションに生かすICF 第4回教育と当事者参加―茂木俊彦氏、藤井克徳氏との対談から（大川弥生）